

卒寿迎えてなお意気軒高

昭和20年⑤卒同期会

平成28年5月21日、秋田ビューホテルで卒寿を祝い同期会を開催した。卒業生266人中、物故者、連絡不明者を含めて205人。現存者61人中の18人が参加。2年前の米寿会から6人も減じて、さびしい気がしたのは私だけではなからう。

在学1年の冬に太平洋戦争が勃発し、「欲しがりません。勝つまでは」と、粗衣粗食の毎日が続き、我慢強く生き延びることが今日の長寿に繋がっているように思えてならない。

自分が「90歳まで生きられたと長寿を感謝すること」よりも、「生きている間に、世のため、人のため、そして世界平和のために、どれだけ貢献できたかを評価される人生のほうが大事」と、本校・建学の精神が述べているように思えてならない。(加賀谷 清記)



34年ぶり 感無量の同級会

昭和58年卒理数科13期生

高校3年間を共に過ごし、強い絆で結ばれていた我々理数科13期生。いつでもできると思っていた同級会を卒業34年にしてようやく催すことができた。

時は平成28年8月10日、場所はルポールみずほ。クラス全員に声掛けしたところ、北は青森、南は東京から15人の精鋭が集い、1年次の担任の米田進先生、2・3年次の担任の高橋克二先生をお招きし、総勢17人での開催となった。乾杯の後、米田先生と克二先生から当時の思い出や現在のお話をしていただき、それから参加した皆から近況報告をもらった。

時は皆に平等に流れてはいるものの、当時の面影のあるもの、ないもの、それぞれの過ごした30年余が感じられ、感慨深いものがあった。また、久しぶりだし、ごちない会になるのかとの懸念もあったが、全くの杞憂。赤いTシャツの学級対抗、文化祭のクラスデコ、修学旅行の事件、「街角トワイライト」の合唱コンクール、すぐに当時に立ち返り、杯を大いに重ね、盛り上がる会となった。もちろん生徒全員で2次会になだれ込んだのは言うまでもない。今回はお盆時期の開催となったが、次回は正月と時期を変えての開催を検討している。さらに多くの仲間との再会を果たしたいものである。(中山 悟記)



卒後35年、笑顔の再会

昭和56年卒同期会

8月14日、ホテルメトロポリタン秋田にて、6年ぶり3回目の同期会を開催し91人が参加した。記念撮影時から笑顔があふれ、楽しい時間の始まりであった。

古井生徒会副会長の開会挨拶の後、恩師代表の細谷義次先生からご挨拶と乾杯のご発声をいただいた。ノーザンプレッツの新出君を始めとするテーブルスピーチをはさみながらの懇談は、再会の喜び、現況報告、思い出話と続き徐々に高校時代へとタイムスリップしていった。

終盤のメインは校歌斉唱5番まで。全員が一つになった瞬間であった。最後は尾形君のリードでのエール。中締めは今回の立役者の鶴田君の声掛けでの三三七拍子。再会を約束しての散会となった。何年たっても同期の仲間という素晴らしい宝物を再発見できた同期会であった。

(保坂 恵美子 記)



練習の思い出今も尽きず

水泳部OB会・紫水会

6月17日、紫水会総会を秋田市の協働大町ビルで開催した。参加者は県外の5人を含め17人。いつもながら県外の参加者には頭が下がります。また、この度は矢野恵之助会長のご尽力により、42年卒の畠山伸郎君、佐藤貞直君、越後谷卓夫君が初めて参加され、会の若返りが進んだことは、これまでの課題であっただけで大変うれしい出来事でした。役員改選で41年卒の平岡清明君が新幹事長に選任されたことも、さらにこれを加速させてくれるものと期待をしているところです。

懇親会は、体調が回復し2年ぶりに参加された25年卒新岡雅顧問の乾杯のあと歓談に入った。話題は空素沼時代から学校プールでの練習などなど。楽しい時間は瞬間に予定の時間が過ぎ、来年の再会を誓って名残を惜しんでのお開きとなった。(斎藤 紀明=昭和35卒 記)

